

2025 年度 事業報告書

2025 年 4 月 1 日から

2026 年 3 月 31 日まで

公益社団法人自動車技術会

目 次

◆	ごあいさつ	1
事業報告		
1	総 会	2
2	役員会	2
3	会 員	2
4	調査及び研究（定款第5条1号）	3
5	研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条2号）	4
6	学術誌及び学術図書の刊行（定款第5条3号）	5
7	人材の育成（定款第5条4号）	7
8	規格の作成及び普及（定款第5条5号）	10
9	内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款第5条6号）	12
10	研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号）	13
11	その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）	14
	参考：事業区分の説明	15

ごあいさつ

公益社団法人自動車技術会

会長 中畔 邦雄

自動車技術会会員の皆様方及び関係各位におかれましては、日頃より自動車技術会の活動にご支援及びご協力賜り、誠にありがとうございます。2025 年度事業報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

まず初めに、2025 年度も様々な活動をつつがなく執り行うことができました。これも皆様のお力添えの賜物であり、改めて深くお礼申し上げます。

2025 年度の事業を振り返りますと、人とクルマのテクノロジー展は、横浜、名古屋、オンラインのいずれも来場者数は前年を上回り、過去最大規模での開催となりました。

春季大会・秋季大会は、開催形式をコロナ前の実地開催に戻し、後日録画配信という新たなサービスも導入、会場参加者は昨年を上回り、活気に満ちた大会となりました。

学生フォーミュラ日本大会は、コロナ禍の影響で減少していた参加チーム数も回復し、特に EV クラスは前年に対し倍増となりました。

技術会議では、50 の部門委員会及び 1 つの特設委員会を開催、その活動の成果は、オーガナイズドセッションやシンポジウムなどを通じ、会員の皆様や社会に向け、広く情報発信しています。

規格事業では、日本が積極的に関与した国際規格 TC22 6 件、TC204 4 件を発行し、国際規格への日本の意見の反映、日本の貢献のアピールに繋がりました。

新たな技術領域としては、自動運転 AI チャレンジの参加者も昨年に対して 47%増と大幅に増加、この分野への関心の高さと期待をあらわしております。また、“くるまからモビリティへ”の技術展は、オンラインとリアルイベントを併催、人とくるまのテクノロジー展とは異なる来場層を獲得し、モビリティ分野の技術動向を体系的に把握できる場として評価を得ております。

今、自動車産業は大きな変換期にあり、産業を取り巻く環境や世界情勢も不確実性を高めています。日本の自動車産業が競争力を維持し、さらに発展していく為に、カギとなるのは技術の進化であり、自動車技術会の価値と役割の重要性を改めて実感しております。

そのような状況において、自動車技術会が会員の皆様にとってより魅力的な団体であり続けるために、会員の皆様へ提供する情報の価値や、交流する場としての価値など自動車技術会の価値を向上する活動を加速してまいります。

1947 年、日本の発展、国民生活の向上のために、自動車に関わる様々な技術分野の団体を自動車軸で束ねて設立された本会は、2027 年に創立 80 周年を迎えます。

皆様のご支援とご協力を賜りながら、自動車技術会は、これからも人と知をつなぎ、モビリティの未来を支える場として、自動車産業と技術の発展に寄与し、次世代のモビリティ社会の構築に向き合ってまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくごお願い申し上げます。

以上

1 総 会

2025年5月22日に、パシフィコ横浜（横浜市）において第15回定時総会を開催した。

今回の総会は代議員による事前の書面又は電磁的方法による議決権の行使と、会場に参加している代議員の議決権の行使に基づき議案の決議を行った。中畔会長（2024-2025年度）の議長により、次の議案が審議され、いずれも異議なく可決された。

書面またはインターネットによる議決権の総数：102個

会場での議決権行使数：89個

議案：

第1号議案：2024年度決算報告の件

第2号議案：理事選任の件

第3号議案：名誉会員推薦の件

報告事項

(1) 2024年度事業報告の件

(2) 2025年度事業計画の件

(3) 2025年度予算の件

2 役員会

理事会4回、担当理事会3回、及び支部担当理事会2回を開催した。

3 会 員

2025年度中の個人会員の入会者数は4,245名、退会者数は4,538名で、2026年3月31日現在の個人会員数は、前年度に対し293名減の42,388名となった。賛助会員の入会数67社、退会数は58社で、2026年3月31日現在の会員数は前年度比9社増の780社となった。

会員資格別会員数の推移（毎年度末現在）

	名誉会員	正会員	学生会員	合 計	賛助会員
2021年度	50	43,432	1,318	44,800	685
2022年度	48	43,322	1,657	45,027	712
2023年度	45	41,738	1,839	43,622	730
2024年度	48	40,563	2,070	42,681	771
2025年度	49	40,108	2,231	42,388	780

支部別会員数の推移（毎年度末現在）

	北海道支部	東北支部	関東支部	中部支部	関西支部	九州支部	海 外	合 計
2021年度	194	397	16,900	20,685	5,654	784	186	44,800
2022年度	246	456	17,123	20,299	5,859	857	187	45,027
2023年度	260	414	16,769	19,492	5,678	807	202	43,622
2024年度	258	362	16,352	19,262	5,531	728	188	42,681
2025年度	262	337	15,566	20,084	5,299	710	130	42,388

4 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

技術会議では、自動車及び自動車関連技術の調査・研究・技術情報の交換及び討議を目的とする50部門委員会と1特設委員会が活動を推進した。

新連携創生センターでは、産学連携事業、他学協会との連携事業を目的とする2委員会が活動を推進した。

部門委員会及び新連携創生センターの各委員会の企画により、2025年春季大会においては74件のオーガナイズドセッション（OS）を実施、シンポジウム・講習会については23件、フォーラムについては人とくるまのテクノロジー展 YOKOHAMA（5月）で16件、NAGOYA（7月）で6件を実地で開催し、技術交流の促進に大きく貢献した。

国際会議では、5月に「EVTec2025」を横浜で実地開催した。

技術会議

技術会議	技術会議組織の適正な運営、ならびに技術の向上を目指す交流活動の企画、推進、調整のための論議を行った。3回開催	
運営検討委員会	技術担当理事により、技術会議組織の適正な運営のための種々の課題に関する論議を実施行った。3回開催	
イノベーション創出委員会	2020年度より活動休止していたものを今年度より活動を再開した。新しい技術分野の委員会や、異分野領域と連携した技術委員会の再編・統廃合の検討を行った。1回開催	
合同会議	2025年8月26日 実地開催（東京科学大学）、137名出席、基調講演1件、事務局から2025年度事業報告と2026年度事業計画策定を依頼、技術部門貢献賞および学術講演会運営功績感謝状の表彰式は同会場にて実施	
分野連絡会	技術ロードマップ改定に伴い、今年度より活動を再開した。3つの分野に分け、各2回開催。	
部門委員会・特設委員会	50部門委員会と1特設委員会で活動、委員会延べ開催数276回、話題提供数417件	
学術講演会運営委員会	春季・秋季大会の学術講演会のセッション編成、優秀講演発表賞受賞者の選定、等を実施	
国際会議	以下の国際会議を準備、開催 ・EVTec2025（2025年5月19日～21日、横浜）実地開催	
OS・フォーラム	OS：2025年春季大会にて74件を企画・実施（セッション全体86件） フォーラム：人とくるまのテクノロジー展 YOKOHAMA（5月21日～23日）で16件、NAGOYA（7月16日～18日）で6件、合計20件を実地で開催した	
シンポジウム・講習会	シンポジウム：19件開催、講習会：4件開催 シンポジウム・講習会合わせて総動員数2714名	
公開委員会	14委員会が実施	
研究調査事業	抛出型2委員会が3テーマで実施	
受託・請負事業	大気環境技術・評価部門委員会（受託先：日本自動車工業会） 車外騒音部門委員会（受託先：環境省）	
その他活動	振動騒音部門委員会	技術者育成プログラム（主に学生対象）
	デザイン部門委員会	第13回二輪デザイン公開講座 第14回モビリティデザインコンテスト
	材料部門委員会	日本金属学会・日本鉄鋼協会と合同シンポジウムで連携
	自動車制御モデル部門委員会	計測自動車制御学会と連携
	持続可能な自動車社会検討部門委員会	NEDO「運輸部門省エネルギー技術開発」テー

映像情報活用部門委員会	マの具体化に関する調査 WG 参加協力 ドライブレコーダ協議会とシンポジウムで 連携
-------------	--

新連携創生センター

運営委員会	新連携創生センターセンターの運営他について議論した。1回開催
委員会活動	2委員会にて調査研究活動を推進、委員会延べ開催数12回、話題提供者数16 件

OS : Organized Session

EVTeC: International Electric Vehicle Technology Conference

5 研究発表会及び学術講演会等の開催

(定款第5条2号、公益目的事業2・3・自動車技術展は収益事業)

5月の春季大会は、本年より開催形式をコロナ前の実地開催(会場：パシフィコ横浜)に戻し、あわせて後日録画配信という新たなサービスも導入して実施した。参加登録者数は5,808名と、ハイブリッド開催時よりは減少したものの、会場での参加者は増加し、現地のにぎわいもコロナ前の様子に近づきつつあり、充実した大会となった。

10月の秋季大会は、北九州国際会議場、西日本総合展示場、リーガロイヤルホテル小倉の3会場で、春季大会と同様に実地開催と後日録画配信を組み合わせ実施した。参加登録者数は2,276名であった。また、昨年より企画している秋季大会での展示会(JSAE INNOVATION FAIR)には、昨年より4社多い24社25小間が出展し、活気ある展示会となった。

人とくるまのテクノロジー展は、横浜・名古屋で開催すると共に、それぞれでオンライン展示会を併催した。また、将来のモビリティに必要な技術領域に焦点を充てた“くるまからモビリティへ”の技術展2025を11月-12月に開催した。

春季大会 <2025年5月21日(水)～23日(金) 実地開催(パシフィコ横浜)>

	実地開催+後日録画配信
学術講演会	86セッション、講演数398件(内、英語講演100件) 参加登録者数5,808名
Keynote Address	実地開催 聴講者数830名
第9回学生ポスターセッション	実地開催 発表件数66件

フォーラム <人とくるまのテクノロジー展 YOKOHAMA : 2025年5月21日(水)～23日(金)、パシフィコ横浜、人とくるまのテクノロジー展 NAGOYA : 2025年7月16日(水)～18日(金)、Aichi Sky Expo、実地開催>

フォーラム	22件、参加登録者数3,630名
-------	------------------

秋季大会 <2025年10月15日(水)～17日(金) 実地開催(北九州国際会議場、西日本総合展示場、リーガロイヤルホテル小倉)>

	実地開催+後日録画配信
学術講演会	71セッション、講演数343件(内、英語講演13件)、 参加登録者数2,276名
テクニカルレビュー	実地開催 聴講者数356名
市民公開特別講座	実地開催 聴講者数197名
第10回学生ポスターセッション	実地開催 発表件数40件
JSAE INNOVATION FAIR	実地開催 24社が技術紹介

人とくるまのテクノロジー展

- <2025年5月21日(水)～23日(金) パシフィコ横浜(横浜市)>
- <2025年5月14日(水)～6月4日(水) ONLINE Stage1>
- <2025年7月16日(水)～18日(金) Aichi Sky Expo(常滑市)>
- <2024年7月9日(水)～7月30日(水) ONLINE Stage2>

人とくるまの	出展社617社/1,470小間(オンライン627社)
テクノロジー展2025	来場登録者79,808名(オンライン来場登録者94,522名)

YOKOHAMA/

ONLINE Stage1

人とくるまの

出展社 475 社/989 小間 (オンライン 485 社)

テクノロジー展2025

来場登録者29,852名 (オンライン来場登録者34,861名)

NAGOYA/ONLINE Stage2

“くるまからモビリティへ”の技術展

オンライン <2025年11月26日(月)~12月19日(金)>

リアルイベント<2025年12月10日(水)東京国際フォーラム(東京都)>

“くるまから

出展社 29 社、来場登録者 8,548 名

モビリティへ”

の技術展2025

シンポジウム

委員会企画

シンポジウム・講習会

シンポジウム19回、講習会4回を開催、計2714名参加

6 学術誌及び学術図書の刊行（定款第5条3号、公益目的事業1・2・3）

本年度は、「2050年チャレンジ」を基に制定した編集会議ロードマップの各事業を引き続き実行した。特に、自動車技術ハンドブック第11分冊の編集において、自動運転とSDVの2チーム体制へ再編する方針を決定し、委員構成の再調整を進めた。その他、文献・情報検索システムへの全文検索機能の実装、同システムへの新18分類の適用、レコメンド機能のローンチを実施した。また、出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった11名の方に出版・編集功績感謝状を贈呈した。

資料収集・調査研究に関する学術誌の発行

会誌「自動車技術」	<ul style="list-style-type: none"> ・主に自動車に関わる技術者、研究者に向けた最新の技術情報を毎月特集し、年間12号を発刊 ・8月号は「年鑑号」として前年中の自動車および関連分野の動向や統計データを総括して掲載 ・個人会員、賛助会員、定期購読者に電子書籍形式で配信 ・6月号～9月号に若手読者向けの記事として、若手会員と、東京海洋大学 吉岡 哲也 教授との「レジェンド企画」動画を掲載 ・会誌認知度向上を狙い、7月号の期間限定無料公開（7/30～8/30）を実施。
文献情報収集	文献情報検索システム上に、2342件の文献情報を掲載
JSAE エンジンレビュー	電子版不定期刊行物として発行 2025年度は、Vol. 15 No. 5～Vol. 16 No. 1として、計6回発行
JASO Standards Viewer	日英両規格を収載したWebシステムJASO Standards Viewerを運用開始 最新JASO規格、TP 1310件を収載
高翔	関東支部企画・編集により2回発行
宙舞	中部支部企画・編集により2回発行
関西支部ニュース	関西支部企画・編集により2回発行
テストングツール 最前線 2025	自動車開発の現場を支える試験・計測・診断・評価・検証ツールなどソリューション情報をまとめた記事を冊子版として展示会場で配布、また電子版も配信 会誌発行に合わせて会員に配信
次世代自動車技術 最前線 2025	次世代自動車に関係する各社の技術や取り組みをまとめた記事を冊子版として展示会場で配布、また電子版も配信 会誌発行に合わせて会員に配信

研究発表に関する学術誌の発行

自動車技術会論文集	年6回発行、202編をJ-STAGEにて公開
International Journal of Automotive Engineering	年4回発行、16編をJ-STAGEにて公開
学術講演会予稿集	春季大会分 398件を電子媒体にて発行 秋季大会分 343件を電子媒体にて発行
Summarized Paper	2025年春季・秋季大会での発行分をWEB上で公開
フォーラム資料	20イベントを電子媒体にて発行、合計107文献を発行

人材育成に関する学術図書の発行

シンポジウム・講習会 テキスト	23イベント分を電子媒体にて発行 合計188文献を発行
九州支部	学自研機関誌（Eternal Car Life 28号）発行

広報関連他の発行

プレスリリース	20 件配信
JSAE メールマガジン	イベント、新着文献等の情報を配信（登録者：約 4 万名）
北海道支部	支部だより 1 回発行
関東支部	メルマガ 38 件配信
中部支部	メルマガ 30 件配信
関西支部	行事案内 12 回発行
九州支部	メールによる行事案内 35 件配信

7 人材の育成（定款第5条4号、公益目的事業3）

実地とともにオンラインによるメリットも活かした催事運営を推進した。特に、新たな技術領域の人材育成の取り組みとして自動運転AI チャレンジはEV カートを自動運転に改造をした車両を用い、サーキット走行によるタイムを競う大会を継続、幅広い層の取り込みを図った。また、自動車ソフトウェア領域の新たな取り組みとして、既存の講座整理と不足の洗い出し、新規講座開発を推進、新たに外部講座認定に向けた検討を開始した。また、学生フォーミュラ日本大会は、Aichi Sky Expo へ会場移転し2年目の開催となったが、酷暑や一部雷雨の中、屋内での快適な環境下で大会を開催することができた。また、キッズエンジニアについては、新たにAichi Sky Expo へ開催地を移転し、愛知県や常滑市の協力のもと、開催することができた。

自動車工学講座	
基礎講座	第83回：2025年7月7日（月）～8月1日（金）オンライン開催 参加者190名
	第84回：（モーターサイクル工学）：2025年9月24日（水）～25日（金）静岡文化芸術大学および9月26日（金）～10月3日（金）オンライン開催 参加者405名
	第85回：（マツダ・ひろしま産業振興機構）：2025年11月10日（月）～12月26日（金）オンライン開催 参加者230名
	第86回：2026年2月2日（月）～27日（金）オンライン開催 参加者62名
自動車サイバーセキュリティ講座	第9回：2025年8月26日（水）～28日（金）ハイブリッド開催（ビジョンセンター品川アネックス会議室およびオンライン） 参加者117名 専門プログラム：暗号技術の基礎 2025年4月17日（木） 参加者12名 サイバーセキュリティ品質向上活動チームの構築・運用のポイント 2025年6月19日（木）オンライン開催 参加者12名 OTA Update 基礎 2025年12月1日（月）、2日（火）オンライン開催 参加者6名 サイバーセキュリティコンセプト策定演習 2026年2月6日（金） 参加者7名 ハンズオンイベント 実践CANプロトコル解析 2025年5月22日（木）於 パシフィコ横浜 参加者12名
	第5回システムズエンジニアリング初級 2025年12月18日（木）～19日（金）オンライン開催 参加者74名
	第4回システムズエンジニアリング中級 2026年1月22日（木）～23日（金）オンライン開催 参加者49名
支部の講演会・見学会等	
北海道支部	特別講演会1回（対面+オンラインにて開催）、地方講演会2回（現地開催）、e モータースポーツ北海道支部大会2025（対面走行会2回、オンライン走行会1回、タイムアタック3回）、市民講座6回、ジャパンモビリティショー札幌2026、第31回雪氷路セーフティドライビングコンテスト2回開催
東北支部	見学会2回、講演会2回、市民講座3回、各技術セミナー4回（全て現地開催）、e モータースポーツ北海道/東北支部合同大会2025 2回（オンライン）開催
関東支部	講演会・講習会（オンライン開催を含む）、見学会を合計22回開催、15回目の学生の国際交流活動は、台湾への派遣2名、タイへの派遣は2名。エコ1チャレンジカップ開催。
中部支部	総会講演会1回、研究発表会1回、見学会11回、技術講習会5回、技術交流会2回、技術者懇談会3回、体験型講習会1回を開催。

関西支部	見学会6回、講演会1回、技術者懇談会1回、技術者交流会1回を開催、学会交流特別講演1回を開催（講演会はオンライン、交流会講演はハイブリッドで開催）
九州支部	講演会2回（ハイブリッド開催）、講演会2回（合同例会/見学会内開催）、見学会1回、関西支部との合同例会1回、市民講座5回、技術交流会1回、技術者情報交換会1回

技術者・研究者の認定制度

	JSAE フェローエンジニア 13名
第20回自動車エンジニアレベル認定	JSAE プロフェッショナルエンジニア 24名
	JSAE シニアエンジニア 171名
	JSAE エンジニア 195名を認定

第23回 学生フォーミュラ日本大会 2025 -ものづくり・デザインコンペティション-

2025年9月8日（月）～9月13日（土）にAichi Sky Expo（愛知県国際展示場、愛知県常滑市）車検/動的審査/静的審査を現地開催

EV/ICVの完全クラス分け

【参加チーム状況】

本大会参加チーム：83チーム（ICV58(海外4)・EV25(海外7)）

車検全種目通過チーム：64チーム（ICV46(海外3)・EV18(海外5)）

エンデュランス完走台数：45台（ICV35(海外2)・EV10(海外3)）

EV総合成績：1位 名古屋大学、2位 名古屋工業大学、3位 Jilin University

ICV総合成績：1位 京都工芸繊維大学、2位 同志社大学、3位 大阪大学

北海道支部	学生フォーミュラEV相談会1回、学生フォーミュラ合同試走会3回、学生フォーミュラ日本大会2025報告会
東北支部	ESF相談会2回、模擬車検会1回、試走会4回開催
関東支部	試走会を12回実施（5月、6月、7月×3、8月×3、10月、11月）、各種講座、講習会に加え交流会などを計7回実施
中部支部	試走会3回開催、学生フォーミュラ日本大会2025（9月）
関西支部	試走会6回実施、運営委員会3回、講習会7回実施
九州支部	試走会5回（8月×3、11月、3月）、学生フォーミュラ日本大会2025（9月）、リーダーミーティング12回（4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月）、ドライバー講習会（8月）、安全講習会（6月）、フォーミュラカー展示会（モビリティショー福岡内（12月））、溶接講座（1月）、交流会（10月）

自動運転AIチャレンジ2025

学生クラスと一般クラスを設定し大会を開催。

・予選競技：2025年7月1日（火）～9月1日（月）でオンラインシミュレーションにて開催（チーム249、584名のエントリー）

・決勝競技：2025年10月25日（土）～27日（月）にシティサーキット東京ベイにて開催。15チームが参加。

学生クラス：1位 SSH(慶応義塾大学理工学部)、2位 MMTT(名城大学)、3位 U-Drive(芝浦工業大学工学部)

一般クラス：1位 とつとちゅら太郎(ちゅらデータ株式会社)、2位 GAIOの夜明け(ガイオ・テクノロジー株式会社)、3位 Revs-Lab(ヤマハ発動機株式会社)

コミュニティ貢献賞・広報賞 11件

プレゼンテーション賞 6件

キッズエンジニア2025

2025年8月1日（金）～8月2日（土）にAichi Sky Expoにて開催

小学生及びその保護者を対象に教室型プログラム23件、展示型プログラム9件を実施

参加者4,097名（児童参加数1,658名）

今回より中部開催はポートメッセなごやからAichi Sky Expo（愛知県常滑市セントレア）に会場移転

支部の小学生プログラム

北海道支部	市民講座1 まちなかキャンパス 2025 市民講座2 キッズエンジニア in 北海道自動車整備大学校 2025 市民講座3 くるま未来体験教室 市民講座4 キッズエンジニアinトヨタ自動車北海道 2025 市民講座5 キッズエンジニア in デンソー北海道 2025 市民講座6 キッズエンジニア in 北見工業大学 2025
東北支部	キッズエンジニア in 東北 2025 仙台 (第10回) 開催 親子マイコンカーラリー体験科学教室3回開催 小学生向け学生フォーミュラシミュレーター体験科学教室3回開催 親子3Dプリンター体験科学教室3回開催
関東支部	「小学生くるま未来体験教室」3回開催 (内1回は、北海道支部との共催で開催)。8月のキッズエンジニア 2025、11月のキッズエンジニア in 東北に出展。「クルマとファンと、ときどき かざぐるま」をキッズエンジニア 2025 及びキッズエンジニア in 東北へ出展。
中部支部	キッズ・モノづくりワンダーランド9回開催
関西支部	キッズエンジニア1回 (8月 作業用ロボットプログラミング教室@神戸海洋博物館)
九州支部	ものづくりキッズアカデミー (11月)、キッズエンジニア in 九州 (12月)
次世代モビリティデザイナー人材育成プログラム「モビリティデザインに挑戦！」	
第14回モビリティデザインコンテスト	応募357作品、6名に各賞を授与、佳作20件
学生活動企画委員会の活動	
学生ポスターセッション	第9回:2025年5月21日(水)~23日(金) 於 パシフィコ横浜 66件の発表。スポンサー17社、8件のポスターセッション優秀賞 第10回:2025年10月15日(水)~17日(金) 於 西日本総合展示場 40件の発表。スポンサー11社、7件のポスターセッション優秀賞
学生安全技術デザインコンペティション	
9チームがエントリーし、「提案概要書」書面審査および企業見学会・エンジニア相談会を経て、11月13日(木)「提案書」審査会の結果、4チームが2026年1月19日(月)日本地域大会決勝に参加。日本地域大会決勝においてプレゼンテーション・デモ・質疑を行い東京都市大学が1位となり、2026年5月開催の国際大会へ参加予定。	
学生自動車研究会(学自研)の活動	
北海道支部	各校企業見学会5回、eモータースポーツ北海道支部大会2025(対面走行会2回、オンライン走行会1回、タイムアタック3回)、第31回雪氷路セーフティドライビングコンテスト 2回開催
東北支部	支部学自研大会1回、運営委員会4回、学自研参与会1回、学自研講演会1回、第44回タイヤ研修会1回、第35回自動車技術独創アイデアコンテスト1回を全てオンライン開催、企業見学会1回、第40回自動車整備コンテスト1回、第36回手作り自動車省燃費競技大会1回開催
関東支部	学自研大会1回、参与会1回、支部学生委員会11回、Japan Mobility Showの取材レポートを支部報へ寄稿。見学会等を3回開催
中部支部	参与会2回、学生委員会5回、安全講習会3回、安全ミーティング5回、ものづくりセミナー1回、基礎技術交流会1回、テクニカルセミナー(エンジン講習会)1回、カート走行会1回、レース見学会2回、北陸交流会1回、学術講演会1回開催
関西支部	参与会1回、運営委員会4回、講演会3回、研究室見学会3回、工場見学会1回、見学会&懇談会1回、卒業研究発表講演会1回開催
九州支部	九州支部学自研総会研究発表会(総会、講演会、研究発表会、学生フォーミュラ大会報告会、懇親会、学生フォーミュラカー交流会)(10月)、安全運転講習会1回(8月)、学生委員会議(7月)、見学会(9月)、学自研機関誌1回発行

8 規格の作成及び普及（定款第5条5号、公益目的事業1）

規格会議では、国内標準化審議団体として、自動車分野〔自動車標準化委員会（ISO/TC22）、JIS/JASO規格審議委員会〕及びITS分野〔ITS標準化委員会（ISO/TC204）〕における標準化活動を推進した。ISO国際会議はハイブリッド会議を基本とし、オンラインのみによる会議がハイブリッド会議の補完的に開催されるようになってきたが、ハイブリッドを含む面着会議が増加傾向であり、参加者も増えてきている。このような中、専門家の現地派遣を行い、計画通り進捗した。

自動車標準化委員会では、ISO/TC22傘下SC/WG会議に専門家を派遣し、日本発及び積極的に関与した6件の国際規格の発行に貢献した。さらに、2018年に策定された規格会議ロードマップを更新すべく戦略企画WGにて議論を行い、改訂を行った。また今後の5カ年の活動計画について、改訂した規格会議ロードマップの内容を反映させた内容に改訂し、2026年度の活動に向けた「自動車標準化5カ年計画2026」を策定した。

JIS/JASO規格審議委員会では、JIS制定案1件/改正案4件、JASO制定案5件/改正案11件、テクニカルペーパー案5件を審議し、規格会議で承認した。また、昨年度策定したJASO TP 25001「自動車用電気電子部品のEMCシミュレーション手法に関するガイダンス」を中心にEMC規格に関する講習会を実施した。

自動車分野の標準化活動に貢献いただいた3名の専門家に、功労者感謝状を贈呈した。

ITS標準化委員会では、ISO/TC204総会、各WG会議及びアドバイザーグループ等に専門家が参加し、日本発となる4件の国際規格発行に貢献した。また、ISO/TC204における標準化活動と社会実装との関係及びITS標準化を取り巻く主要な国内外動向を整理・分析した「ITS分野の国際標準化現状分析2026」を取りまとめ、ITSの国際標準化に関する今後の日本の取り組みの方向性を確認・検討する。また、国際標準化普及促進を目的としたITS国際標準化フォーラムを開催した。

ITS分野の標準化活動に貢献いただいた2名の専門家に、功労者感謝状を贈呈した。

自動運転に関する活動では、レベル4自動運転サービスの社会実装に向け、日本自動車工業会との連携を通じて標準化団体としての貢献に取り組んだ。

経済産業省の表彰制度において、日本の競争力強化に不可欠な標準化活動において顕著な功績を挙げたとして、規格会議傘下分科会に所属する1名が産業標準化事業表彰 イノベーション・環境局表彰を受賞した。

自動車標準化委員会、JIS/JASO 規格審議委員会（自動車分野）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ TC22/SC/WG 会議 会議出席： 102会議371名（面着出席220名、オンライン出席151名） ・ 1 件の新規作業項目提案 - ISO 6727：二輪自動車のコントロール、インジケータ及びテールランプのシンボル ・ 117 件の国際規格案（DIS）回答 ・ 6 件の日本提案・主導による国際標準規格等発行 -ISO/PAS 21779-1：ペダル踏み間違い時加速抑制装置の性能評価試験 -ISO 13296：高圧燃料噴射管アセンブリ -ISO/TS 4654：先進事故自動通報システム（AACN）の傷害予測アルゴリズム -ISO 21755-3：二輪自動車 - 燃料蒸発ガス試験方法 第3部：VT-SHED 試験 -ISO 18243：電動二輪車及び電動モペット - リチウムイオン電池の試験法及び安全要件 -ISO/TS 5283-1：ドライバのレディネスとシステム介入マネジメント 第1部：部分運転自動化
ISO	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 27 回 ISO 研修会 基礎編（8月20日） 参加者 458 名（内正会員 284 名） 内容：ISO の基礎知識 ・ 第 28 回 ISO 研修会 実践編（2月17日） 参加者 121 名 内容：ISO エキスパート 2 名による講演
JIS	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制定案1件、改正案4件、廃止2件 ・ JIS・JASO 原案作成講習会(7月2, 16日) 参加者16名
JASO	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制定5件、改正11件、小改正11件、廃止3件、テクニカルペーパー制定5件 ・ 規格講習会(6月26日) 参加者434名 内容：JASO TP25001「自動車用電気電子部品の EMC シミュレーション手法に関するガイダンス」を中心とした EMC 規格講習会
委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦略企画 WG にて規格会議ロードマップを改訂 ・ 5カ年計画制定・メンテナンス WG を設置し「自動車標準化5カ年計画 2026」を策定 ・ 12部会、63分科会を設置、構成委員数2559名、開催数346回
受託事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 7 年度エネルギー需給構造高度化基準認証推進事業（省エネルギー等国際標準開発（国際標準分野））（自動運転システムの安全性に寄与する技術の国際標準化）委託元：野村総合研究所 ・ 令和 7 年度国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業（駆動系・パワートレイン（内燃機関）およびパワートレイン油脂類に関する標準化活動）委託元：三菱総合研究所 ・ 令和 7 年度国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業（二輪自動車及び電動二輪自動車に関する標準化活動）委託元：三菱総合研究所 ・ 2025 年度標準化事業 委託元：日本自動車工業会
表彰	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準化活動功労者感謝状贈呈 3 名 ・ 産業標準化事業表彰：イノベーション・環境局表彰 1 名

ITS 標準化委員会 (高度道路交通システム分野)

	<ul style="list-style-type: none">・ TC204 及び関連国際会議 会議出席：17 会議 93 名（面着出席 54 名、オンライン出席 39 名）
ISO	<ul style="list-style-type: none">・ 3 件の新規作業項目提案-ISO/PWI TR 25971：交通管理と交通サービスのための信号交差点データモデルの調査-ISO/PWI 23792-3：高速道路自動運転システム 第3部：強制車線変更の性能要件及び試験法-ISO/PWI PAS 26355：市街地自動運転システム 衝突回避試験法作成ガイドライン・ 16 件の国際規格案 (DIS) 回答・ 4 件の日本提案・主導による国際標準規格等発行-ISO 7856：低速自動走行システムの遠隔支援-ISO/TS 22726-1：協調／自動走行システムのアプリケーションのための動的情報及び地図データベース仕様-ISO 23792-1：自専道自動走行システム—第1部：全体構成と一般要件-ISO 23792-2：自専道自動走行システム—第2部：任意の車線変更の要件
委員会	<ul style="list-style-type: none">・パンフレット「ITS の標準化 2025」を発行・「ITS 分野の国際標準化現状分析 2026」を策定・ITS 標準化委員会、技術委員会、ITS 国際標準化戦略タスクフォース、WG14 部会関連、その他の国内会議を 68 回開催、構成委員数 392 名・ITS 国際標準化フォーラム 2026「自動運転時代に向けた ITS の展望」（参加者：会場 58 名、オンライン 191 名）
受託事業	<ul style="list-style-type: none">・エネルギー需給構造高度化基準認証推進事業費（省エネルギー等国際標準開発（国際標準分野（新規対応分野））（スマートモビリティシステムを実現する高度自動運転システムに関する国際標準化）委託元：日本規格協会
表彰	<ul style="list-style-type: none">・標準化活動功労者感謝状贈呈 2 名

JIS: Japanese Industrial Standards

JASO: Japanese Automobile Standards Organization

TC: Technical Committee

SC: Sub-Committee

WG: Working Group

DIS: Draft International Standard

9 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

(定款第5条6号、公益目的事業1・2・3)

国内では日本学術会議や関係府省庁、日本工学会等関連団体との連携に努め、海外では FISITA の活性化に協力すると共に、欧米・アジア地域の各国自動車技術会をはじめとする諸機関、団体との交流を推進した。

日本学術会議	協力学術研究団体として連携を図った。安全工学シンポジウム2025 (2025年6月) を共催
経済産業省	エネルギー需給構造高度化基準認証推進事業(省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野)):①スマートモビリティシステムを実現する高度自動運転システムに関する国際標準化 ②自動運転システムの安全性に寄与する技術の国際標準化 戦略的国際標準化加速事業:①二輪自動車及び電動二輪自動車に関する標準化活動 ②駆動系・パワートレイン(内燃機関)およびパワートレイン油脂類に関する標準化活動 モビリティDXプラットフォーム構築・推進事業 自動運転AIチャレンジ2025 (2025年7月～9月、11月) の開催で連携(一部受託) 第四次産業革命スキル習得講座認定制度における「自動運転分野」に関わる審査機関として協力
国土交通省	2025年度学生安全技術デザインコンペティション (SSTDC: Student Safety Technology Design Competition) 日本大会決勝 (2026年1月開催) の後援および優勝チームへの国土交通大臣賞授与。優勝チームを第28回ESV国際大会 (トロント: 2026年5月) にて開催の国際大会へ派遣予定
環境省	車外騒音部門委員会が今後の車外騒音規制のあり方に関する国際動向調査(受託事業)を実施
新エネルギー・産業技術総合開発機構	運輸部門省エネルギー技術開発テーマに関する調査のWGに持続可能な自動車社会検討部門委員会が参画し活動を推進
日本工学会	理事会・事務研究委員会へ委員を派遣し、工学系学術団体との連携を推進
日本機械学会	日本機械学会主催の第11回先進エンジンシステムのモデリングと計測に関する国際会議/COMODIA2025 (2025年12月) を協賛
日本規格協会	自動車工学基礎講座・標準化講座への講師を依頼 JIS、JASO 原案作成講習会への講師を依頼
日本自動車工業会	海外におけるPM研究動向の最新研究調査(受託事業)を実施 自動運転部会との連携活動 自動運転AIチャレンジ2025 (2025年7月～9月、11月) の開催で連携(後援)
日本自動車研究所	ISO/TC22 (自動車) における国際標準化連携活動
自動車基準認証国際化研究センター (JASIC)	自動車イノベーション技術標準化研究所 自動運転センターにおいて、自動運転技術に関する基準(国連法規)、標準(国際規格)連携活動を推進
日本金属学会・日本鉄鋼協会・日本塑性加工学会	材料部門委員会の活動で連携
計測自動制御学会	自動車制御とモデル研究部門委員会の活動で連携
FISITA	FISITA 執行役員会並びに理事会の副会長の要職に本会役員などが就き、FISITA 組織・活動に参画。
JASPAR	車の電子技術に関する標準化で連携
SAE International	
国際会議	国際会議共催の協力覚書のもと SETC2025 (フィレンツェ・イタリア/SAE 主担当/2025年11月) を開催
英国機械技術者協会 (I Mech E)	MOUに基づき友好的協力関係構築の活動を継続
中国汽车工程学会 (China SAE)	国際会議等で連携

韓国自動車工学会 (Korean SAE)

タイ自動車技術会 (SAE Thailand)

アジアなど海外に係わる活動

英文電子ジャーナル	国内外からの英語投稿論文を J-Stage 上で公開する電子ジャーナル「International Journal of Automotive Engineering」を定期配信
“くるまからモビリティへ”の技術展	従来の自動車業界の枠組みにとらわれず、将来のモビリティに必要な技術・人材を取り込む活動として「“くるまからモビリティへ”の技術展2025」を開催（2025年11月26日-12月9日）し、電気学会、モビリティサービス協会、EV ワイヤレス給電協議会と協力

講座に係る活動

自動車サイバーセキュリティ講座	日本自動車工業会、JASPAR、J-Auto-ISAC、情報通信研究機構からの講師協力をはじめ、経済産業省、国土交通省、情報処理推進機構と連携して開催
システムズエンジニアリング講座	初級（2025年12月）、中級（2026年1月）の開催にあたり慶應義塾大学大学院 SDM 研究科と共催

ESV : International Technical Conference on the Enhanced Safety of Vehicles

FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies

APAC: Asia Pacific Automotive Engineering Conference

SETC: Small powertrains and Energy systems Technology Conference

10 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号、公益目的事業2・3）

自動車工学及び自動車技術の向上発展に多大な功績のあった技術者・研究者に対し、自動車技術会賞をはじめとして、以下の賞を授与した。

技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

第75回自動車技術会賞	浅原賞学術奨励賞4件、 浅原賞技術功労賞1件、論文賞9件、技術開発賞8件を授与
技術教育賞	2件に授与
技術部門貢献賞	51件に授与
自動車技術会フェロー	28名に称号を授与
標準化活動功労感謝状	標準化活動に顕著な貢献があった3名に感謝状を贈呈
ITS 標準化活動功労感謝状	ITS 標準化活動に顕著な貢献があった2名に感謝状を贈呈
編集・出版功績感謝状	編集委員会委員としての活動に多大な功績があった方、編集会議に係わる著作物の出版に多大な功績があった11名に感謝状を贈呈
学術講演会 優秀講演発表賞	春季大会講演から9件、秋季大会講演から9件に授与
学術講演会運営功績 感謝状	学術講演会の運営に顕著な貢献があった2名に感謝状を贈呈
キッズエンジニア運営功 績感謝状	キッズエンジニアの活動に対して顕著な貢献があった2名に贈呈。
学生フォーミュラ大会 運営功績感謝状	学生フォーミュラ大会の活動に対して顕著な貢献があった者に贈呈。 今年度は該当なし

学生対象の業績表彰

大学院研究奨励賞	12名の大学院生に授与
学自研功労賞	151名の学生に授与
学生ポスターセッション 優秀ポスターセッション 賞	第9回（2025年春季大会）8名に授与 第10回（2025年秋季大会）7名に授与

11 その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）

公益社団法人対応業務

内閣府への事業報告 定時総会終了後、事業報告・決算書を内閣府に対して提出
・決算書の提出（電子申請）

寄附金 8名 総額31万9千円

代議員会・委員会・だいじん会

代議員会 第2回代議員会（2026年1月30日）

・2025年春季大会 各催事の開催報告
・2025年秋季大会 各催事の開催報告

運営企画会議
・規則、処理基準の改定について確認、承認
・入会サポートについて確認、承認
・2026年春季大会 Keynote Address の企画を検討

総務委員会
・第6回若手技術者交流会の企画、実施（2025年5月23日）参加者46名
・第7回若手・中堅技術者交流会の企画、実施（2025年10月17日）参加者31名

自動車業界ウェルビーイングラボ by 女性技術者ネットワークカフェ
in 春季大会の企画、実施（2025年5月22日）参加者58名

自動車業界ウェルビーイングラボ委員会
・自動車業界ウェルビーイングラボ by 女性技術者ネットワークカフェ
in 秋季大会の企画、実施（2025年10月16日）参加者92名

広報
・プレスリリースを18件配信
・学生フォーミュラシミュレータを人とくるまのテクノロジー展、キッズエンジニア、Japan Mobility Showにて展示

だいじん会 2025年11月21日（金）にアルカディア市ヶ谷で開催し、名誉会員18名が参加

規則制定・改定

改定 改定なし

会員増強

北海道支部 支部活動を PR するために各団体、企業に協力を要請。各校独自イベントの企業見学会を開催し、学生会員の入会を促進。e モータースポーツ北海道支部大会等、新しいスタイルを実施

東北支部 本部入会キャンペーンと連動させ正会員並びに学生会員の入会を促進

関東支部 入会サポート利用者実績を関東支部理事宛に配信するとともに、各理事の所属企業・大学へ入会促進の協力を要請。

中部支部 技術講習会（第5回除く）の参加費を会員は無料とした。本部入会キャンペーンと連動した入会キャンペーン利用者限定の優先参加枠を実施。

関西支部 2026年度4月1日までの会員数目標を設定し、3回の会員・魅力拡大委員会を開催し、担当理事を介して各機関へ入会促進の協力を要請するとともに、特に若手技術者への入会・参加を促進する目的で、会員・非会員を含めた若手技術者の意識調査を実施

九州支部 会の魅力向上と会員へのサービスの充実、新規加入者促進を図るため、若手・中堅技術者交流会を開催（モビリティショー福岡内期間に合わせて実施）

ウェブサイトを活用した会員サービス

新規システム構築 18分類レコメンド機能、賛助会員向け楽々明細

SSO 関連システム、18分類レコメンド機能、ハンドブック HTML ビューア、新ウェブサイト用 CMS、学生フォーミュラ支援システム、Paper Entry System、キッズエンジニアエントリーシステム、アンケートシステム（クエストシステム・データ更新ト）、本部ウェブサイト、支部ウェブサイト、中部支部イベント受付システム、委員情報システム、会員情報システム、文献・情報検索システム、海外決済システム、e-hon システム、イベント参加受付システム、賛助会員向け楽々明細

支部総会・役員会

北海道支部	支部総会1回（対面+オンラインにて開催）、支部理事会2回（対面+オンラインにて開催）
東北支部	支部総会1回、支部理事会3回開催
関東支部	支部総会1回、理事会3回、事業担当理事会37回開催（ハイブリッド開催）
中部支部	支部総会1回、春季合同役員会1回、夏季合同役員会1回、秋季合同役員会1回、新年合同役員会1回、担当幹事会4回、6社会3回、各事業別企画委員会140回、WG 打ち合わせ3回
関西支部	支部総会1回、理事会2回、各事業別企画委員会4回と編集委員会4回を開催
九州支部	支部総会1回（ハイブリッド開催）、理事会2回（ハイブリッド開催）、常任理事会4回（ハイブリッド開催）

参考：事業区分の説明

公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・ 調査及び研究（定款 5-1）
- ・ 規格の作成及び普及（定款 5-5）

公益目的事業 2 研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・ 内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl. 等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAЕ 誌、予稿集等）

公益目的事業 3 人材育成事業・表彰事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・ 人材の育成（定款 5-4）
- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・ 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・ 支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業

事業報告の附属明細書

所属明細書に記載すべき事項はなし